

意見書

令和6年3月29日に開催される第1回新たな地域医療構想等に関する検討会について、所用で出席ができませんので、下記意見を書面にて提出いたします。

公立大学法人奈良県立医科大学公衆衛生学講座
教授 今村 知明

意見1

現在の地域医療構想は病棟単位で機能を明確化する形となっておりますが、病院単位での方向性についても機能を明確化できるように議論を進めて頂きたい。

理由

確かに病棟単位で機能を明確化する形はきめ細やかな部分を検討できるものの、各病院ではまずは病院としてどのような機能を持つべきかの議論が行われている。通常その流れで考えれば、病院として何を指すかの基本コンセプトがあって、その基本的な方向性を目指すためには各病棟を4区分に分けたときにどのような機能を持つべきかを決めていると理解している。その経緯も考慮すれば各病院全体で見たときの機能について目指すべき方向性について明確化することが必要であると考えます。そのためには、病院単位での方向性についても機能を明確化できるように議論を進めて頂きたい。

意見2 (技術的な問題)

地域医療構想を進めるにあたって将来推計を行うことは必須であるが、2020年から2022年の間のデータを使うことは慎重にしていきたい。

理由

2020年から2022年の間、医療界は新型コロナの影響を強く受けているために実測データが従来傾向とは大きく異なっている。将来推計を行うということは元になる数字の変化が続くとの前提が必要になるが、2020年から2022年の間の実数値をみると、各年度間でも変化が大きいためこの数字を使って、将来推計をすると先々の推計のブレが非常に大きくなるため、将来推計に使うには不向きであると考えます。

検討過程で、2020年から2022年の間の実測値を使うことは問題ないと考えますが、実際の採用されるべき将来推計においては、2020年から2022年の間のデータを使うことは慎重にさせていただく必要があると考えます。